

商品市況展望

平成 25 年 3 月 10 日記

週末に発表された米雇用統計は、失業率（2 月）が 7.7%と予想の 7.9%（前回 7.9%）を下回るものとなった。また非農業部門雇用者数（2 月）も 23 万 6 千人と予想の 16 万 5 千人（前回は 11 万 9 千人と 15 万 7 千人から修正）よりも大幅に増加。

つまり米国経済は順調に回復していると示されたわけで、NY ダウは最高値更新を 4 日連続で更新となり、ドル/円相場も一時 96.52 円まで円安が進んだ。

当方としては、別に今回の雇用統計を特定しているわけではないが、「どこかで悪い数字が出て NY ダウが下落に転じた後、金融緩和=QE3 の出口戦略が遠のき、再び商品相場の上昇が始まる」と考えていた。まさかこのタイミングで良い数字が出て、円安が進んで上昇に転じるとは、正直、予想外であった。（数日前から兆候はあったが）

もっとも元々為替相場に関しては、100 円どころか、長期的には 120 円、130 円と円安になって行くのだ、としている。経済のファンダメンタルズがどうだとかの話ではなく、チャート判断ではそうなるでしょ！という話だ。

ただしその円安トレンドが再び始まる時期が、想定よりも 1~2 週間早かったという事なのだ。先物市場では、その 1 週間のタイムラグでも、結構な値幅になってしまうからねえ。

さて好調な数字となった米国の雇用。チャイナの経済データが当てにならん事は子どもでも知っているし、穀物相場をやっている人なら米農務省報告=USDA リポートは「うそだ」と揶揄される事も常識。またゴールドマン・サックスのレポートも、結局は「自分が安値で買ったものを売り抜ける時に買い推奨するんでしょ！」という穿った見方をする人ばかりである。

ではこの米雇用統計。本当に信頼できるのか？ 雇用統計の出し方には幾つかの方法があり、米国では 6 つの指標がある。

U1：失業期間が 15 週間以上／労働力人口

U2；(非自発的離職者+臨時雇用の期間満了者)／労働力人口

U3；完全失業者／労働力人口

U4；(完全失業者+求職意欲喪失者)／(労働力人口+求職意欲喪失者)

U5；(完全失業者+緑辺労働者)／(労働力人口+緑辺労働者)

U6；(完全失業者+緑辺労働者+経済情勢のためにパートタイムで就業している者)／(労働力人口+緑辺労働者)

* 緑辺労働者（えんぺんろうどうしゃ）とは、例えば主婦などのように、家事と就業を兼ねるなど、労働力と非労働力の間をたえず流動して、境界線の曖昧な人たちの事を指す。

毎回、雇用統計で発表される数値は、このうちの U3 である。ここには、パートや仕事を探すことを諦めてしまった人は含まれないわけで、本当の意味での実態を反映しているのかどうかは疑問もあるわけだ。

なにせ米国では、ミドルクラスが大きく減り、総人口のたった 1%が金融資産の 42%を保有し、人口の 80%は金融資産のうちの 5%しか保有していない超格差社会となっているのだから。

〔貴金属〕

○東京金日足

…削除済み…

今週の金の値動き

	4月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
3月4日	¥4,740	37	¥4,757	39
3月5日	¥4,728	-12	¥4,745	-12
3月6日	¥4,728	0	¥4,746	1
3月7日	¥4,785	57	¥4,800	54
3月8日	¥4,837	52	¥4,851	51

金相場は、先週号においては『すぐの戻りはもう一度売られるだろう。出来れば一時的にでも一段安をしておいた底入れが望ましく、月内に良い買い場が来るものと想定している。焦らず、買い場を探すのが良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、NY金は安値での保合いだったものの、再び為替が円安に振れた事から上昇に転じ、週末には4,850円台まで上昇。その後の夜間取引では、96円台半ばまでの円安進行により、4,908円と4,900円台乗せも一時果たしている。

5,081円(2/7)→4,683円(3/4)まで398円下げた相場は、そこから週末の夜間取引の高値4,908円まで、すでに225円の戻りである。

正直言えば、「節分天井、彼岸底」を想定していたため、100円程度の戻りはともかく、こんなに早く戻り歩調に入るとは想定外であった。

チャートでは…中略…

いずれにせよ、来週前半は山場かもしれない。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥4,307	4月25日	¥5,069	2月7日	¥3,886	6月4日	¥4,837
2013年6月	¥4,023	6月27日	¥5,068	2月7日	¥3,940	7月24日	¥4,838
2013年8月	¥4,224	8月29日	¥5,873	2月7日	¥4,166	9月3日	¥4,841
2013年10月	¥4,404	10月29日	¥5,077	2月7日	¥4,330	11月6日	¥4,845
2013年12月	¥4,519	12月25日	¥5,081	2月7日	¥4,502	12月25日	¥4,849
2014年2月	¥4,759	2月26日	¥4,855	3月8日	¥4,683	3月4日	¥4,851

○NY金日足

…削除済み…

週末3/8のNY市場は、前日比1.8ドル高の1576.9ドルでの終了。為替は95.96円での終了のため、国内換算では36円高である。なお為替は、96.52ドルまでの円安場面があった。

チャートでは 1554.3 ドル (2/21) →1619.7 ドル (2/26) まで 65.4 ドル戻した後、格言通りの「初戻りは売り」の戻り売りを浴びて反落。ただし 1564 ドル (3/1) と 2/21 の安値は割り込まず、その後も横ばいでの推移である。

目先の買い転換のためには 1620 ドルと来る必要があるし、逆に 1554 ドルを割り込むと倍返しの下げで 1500 ドル割れが目標となる底抜けだ。

とにかく NY 金は比較的わかりやすい動きであるが、…中略…

なお CFTC 発表の 3/5 現在のファンドのポジションは、…中略…

また 2/15 現在での ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、4,683 円で調整安の底を付けた可能性が大。もう少し乱高下するか、このまま高値追いに入るのかは、来週前半が山場となるだろう。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	4月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
3月4日	¥4,739	31	¥4,787	43
3月5日	¥4,732	-7	¥4,776	-11
3月6日	¥4,801	69	¥4,834	58
3月7日	¥4,834	33	¥4,872	38
3月8日	¥4,922	88	¥4,958	86

プラチナ相場は、先週号においては『プラチナ自体はチャートから一段安の可能性も有り得るだろう。しかし金とのサヤが、大幅に逆ザヤに進行して行くとは考えづらく、ぼちぼちプラチナ買い・金売りのサヤ取りの仕掛け場が接近しているのではと見る』とコメントした。

今週の相場展開は、4,704円(3/4)からは反騰に転じ、週末には4,950円台まで上昇。その後の夜間取引では円安を追い風に更なる上昇となり、高値で4,996円と5,000円に接近する相場となった。

5,300円(2/8)→4,704円(3/4)まで596円の大きな調整を入れた相場は、現在4,996円まで292円の戻りとなっている。下げ幅の半値戻しである。

チャートでは、このまま再度の高値追いとなるかどうかまでは微妙だが、少なくとも4,704円で底打ちはしたと判断するのが妥当だろう。

正直言えば、「節分天井、彼岸底」を想定していたため、早くも「桃の節句に底打ち」となるとは、想定外であった。しかし今後も、過去の相場観には固執し過ぎる事なく、臨機応変に臨むしかあるまい。

今のところ、そのプラチナ独自の材料としては、
…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥4,090	4月25日	¥5,255	2月7日	¥3,466	7月24日	¥4,922
2013年6月	¥3,681	6月27日	¥5,267	2月7日	¥3,460	7月24日	¥4,917
2013年8月	¥3,860	8月29日	¥5,274	2月7日	¥3,807	8月31日	¥4,919
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥5,288	2月8日	¥3,933	10月30日	¥4,935
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥5,300	2月8日	¥4,236	12月25日	¥4,950
2014年2月	¥4,831	2月26日	¥4,974	3月8日	¥4,704	3月4日	¥4,958

また週末3/1のNYプラチナは、前日比8.8ドル高の1603.9ドル。円安でもあるため、国内換算では48円高である。

チャートは、1600ドル台を割れて底抜け状態だったが、株価の上昇とともに1600ドル台を回

復である。ただし本格的な上昇トレンドに乗るためには、1650 ドルと来る必要がある。

○プラチナ－金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,958 円（プラチナ）－4,851 円（金）＝107 円。

286 円（2/14）まで開いたところで、天井打ち。そして 25 円（3/4）まで詰まったところで、底打ちであろう。

…中略…

結論として当方の相場観は、プラチナ価格 4,700 円で底打ち確認か。またサヤも 25 円までの縮小で、底打ち確認と見る。押し目買い方針に、再び転換する作戦がベターであるとする。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	5月限(当限)	前日比	3月限(先限)	前日比
3月4日	¥32,600	240	¥26,700	180
3月5日	¥32,750	150	¥26,340	-360
3月6日	¥32,850	100	¥26,510	170
3月7日	¥32,490	-360	¥26,480	-30
3月8日	¥32,780	290	¥26,820	340

まずはコーンから…

先週号においては『3月からは押し目買いに再び転換である。ファンダメンタルズは、ブラジルの増産や米作付面積の増加など弱材料の方が多いと見ているが、それで売られた場面を今後の円安、天候プレミアムの台頭を期待して買う相場であろう。最終的には、シナ環境材料を期待しているわけだが』とコメントした。

今週の相場展開は、5日は大きく下げたものの、概ね戻り歩調に入った相場が、26,800円台まで反騰。

円安効果は穀物相場にも大きな影響を与え、26,080円(2/27)→26,800円台まで800円ほどの反騰となっている。

28,170円(2/5)→26,080円(2/27)まで2,000円強の下落を演じた相場も、どうもこの安値で底打ちしたようだ。現状での上値抵抗線は27,350円であり、ここを抜けるようなら上昇に加速が付くだろう。

逆にもたもたするようであれば、もう一度安値はあるものと考えている。

とにかく穀物相場自体には…中略…

そんな中で、このところ指摘しているのが、「大気汚染、水質汚染によって、シナの穀物生産高は最大で40%落ちるのではないかと懸念」である。現在のところ、これを材料視して仕掛けている話などは聞いた事もないが、出た時には上に吹っ飛んでいるはずであり、これに賭けてみるのも面白いと思うのだが、さて？

なお一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年5月	¥23,250	4月16日	¥33,900	2月5日	¥21,040	6月4日	¥32,780
2013年7月	¥21,550	6月18日	¥33,350	2月5日	¥21,490	6月18日	¥31,700
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥29,430	8月23日	¥25,510	10月1日	¥28,180
2013年11月	¥25,600	10月16日	¥27,970	2月6日	¥24,420	11月14日	¥26,450
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥28,170	2月5日	¥24,930	12月21日	¥26,580
2014年3月	¥27,290	2月18日	¥27,350	12月18日	¥26,080	2月27日	¥26,820

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末 3/8 のシカゴ市場は、3 月限で 13.75 セント高の 725.25 セントでの終了。12 月限では 5.25 セント高の 547.00 セントである。

米農務省報告で期末在庫が据え置かれたため反騰したが、チャートは横ばいのまま。

なお CFTC 発表の 3/5 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、結果的に 26,000 円割れは回避され、円安でまた東京市場は緩やかな上昇に転じて来ている。そろそろ買い仕掛けを考えると、面白い相場であろうと見る。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	4月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
3月4日	¥61,390	240	¥51,160	260
3月5日	¥60,900	-490	¥51,410	250
3月6日	¥60,950	50	¥51,590	180
3月7日	¥61,500	550	¥52,290	700
3月8日	¥61,600	100	¥53,190	900

続いて一般大豆です…

先週号においては『そろそろ突っ込みは買いで入りたいところであるが、このまま戻したのでは、再度の戻り売りを浴びるだろう。買い仕掛けを考えてはいるものの、焦らずに、もう一段の押し目を待ちたいところである』とコメントした。

今週の相場展開は、断続的に上昇に転じた相場が 53,000 円台まで反騰。

チャートでは、55,450 円 (2/6) →50,150 円 (2/26) まで 5,000 円以上の急落を演じた相場は、結果的にその 50,150 円で底打ち。7日連続高での上昇となっている。

出来れば 5 万円割れ、そして一目均衡表の雲の下に抜けて悪化した場面を買って仕込みしたかったのだが、結果的に「押し目待ちに押し目無し」の相場となってしまった模様。

…中略…

とにかく、あつという間に 3,000 円超の戻りを演じたわけで、50,150 円は目先の底だろうと考える。結論から先に言えば、押し目買い方針だ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥45,350	4月16日	¥62,820	2月6日	¥41,750	6月4日	¥61,600
2013年6月	¥44,700	6月18日	¥58,190	2月7日	¥44,400	6月18日	¥58,190
2013年8月	¥48,020	8月16日	¥58,400	2月7日	¥47,500	11月13日	¥59,000
2013年10月	¥47,220	10月16日	¥57,960	2月6日	¥46,920	10月16日	¥59,140
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥55,450	2月6日	¥48,450	1月9日	¥53,610
2014年2月	¥53,000	2月18日	¥53,440	2月25日	¥50,150	2月28日	¥53,190

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末 3/8 のシカゴ市場は、3月限で 5.00 セント高の 1508.50 セント。11月限は 9.50 セント安の 1268.50 セント。

この日に上昇したのは当限だけで、他は下落。下落の要因は、米農務省報告で期末在庫が据え置かれたためだ。事前予想では、減少を囁いていたゆえに。

なおチャイナは、**備蓄在庫を取り崩す**という噂が出るほど、国内の大豆不足は深刻な状況にあるらしい。まだ市場では全く材料視されていないが、それに汚染問題が加味されれば、今後の相場の不確定要因になるだろう。

また大豊作のブラジルでは大豆の収穫が始まったが、同国は港に現物を運ぶ手段をトラック輸送に頼り、港湾設備は建造されてから 30 年近くも経つ古いもので、港に続く道路は数十キロの渋滞という状況。

大豆だけでなく、トウモロコシ、サトウキビ、コーヒーなども荷積みされるため、**港は荷積み待ちの船で溢れている**。最新情報では、船に荷を積むまで 50~600 日も待たなければならない状況にあり、おまけに滞船料もかかるため、消費国は輸入先をブラジルから米国にシフトしているという。

せっかくモノがそこにあっても、スムーズに輸出出来ないのでは、無いのと同じだ。

また CFTC 発表の 3/5 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、再び円安トレンドが始まった事で、国内は底打ちして 3,000 円の反騰となった。相場はこのまま、押し目買いのトレンドに入っただろうと見る。

[ゴム]

○東京ゴム日足
…削除済み…

今週のゴムの値動き

	3月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
3月4日	269.5	2.5	283.9	-0.2
3月5日	273.0	3.5	287.5	3.6
3月6日	274.3	1.3	289.1	1.6
3月7日	276.0	1.7	291.5	2.4
3月8日	279.9	3.9	298.2	6.7

先週号においては『天井を打った相場は底するまで下がるのが、相場の定説である。その底は打って見なければ誰にも判らない。戻り売り一貫の相場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、**281.0 円 (3/4)** まで下落するものの、その後は反騰。円安の追い風もあり、週末には 298 円台での引け。そしてその後の夜間取引では、**301.5 円まで記録**している。

337.8 円 (2/6) → 281.0 円 (3/4) までで 56.8 円の下げた相場は、そこから **301.5 円まで 20.5 円**の反騰である。

「戻り売り一貫の相場であろう」との相場観は、早期の訂正を強いられる展開である。

先物の上値抵抗線は 302.1 円。これをクリアし、さらに雲の上に抜けてゆく様であれば、トレンドはまた買いに転換する可能性は高い。

また少なくとも、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年3月	253.5	9月25日	316.6	2月6日	240.0	11月12日	279.9
2013年4月	262.1	10月26日	323.9	2月6日	241.8	11月12日	283.4
2013年5月	259.7	11月27日	329.0	2月6日	245.6	11月29日	288.3
2013年6月	286.0	12月21日	334.1	2月4日	274.6	3月4日	292.5
2013年7月	316.3	1月28日	337.8	2月6日	277.5	3月4日	295.3
2013年8月	301.0	2月25日	302.1	2月25日	281.0	3月4日	298.2

当先のサヤは、3月限 279.9 円～8月限 298.2 円と **18.3 円**の順ザヤ。順ザヤ幅は拡大したままである。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、2/10 現在で 1,322 トン増の 10,112 トン。3 旬連続の増加であり、1 万

トンの大台を回復。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、24,000 元を挟んでのもみ合い。まだ上昇に転じているわけではない。

タイ政府の市場介入は、予定通りに3月末時点で打ち切られる予定。これは弱材料であるが、一方で産地は減産期入りする。材料よりも、今はチャートでの判断がベターであろう。

結論として当方の相場観は、結果的に281.0円で底打ちした可能性が高いだろう。今後はまた押し目買いに転換し、円安からの商品高の循環買いに入る可能性が高いのではないかと読む。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

今週の原油の値動き

	3月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
3月4日	¥61,850	480	¥60,620	440
3月5日	¥61,680	-170	¥60,460	-160
3月6日	¥62,630	950	¥61,400	940
3月7日	¥62,560	-70	¥61,350	-50
3月8日	¥63,640	1080	¥62,590	1240

まずは原油から…

先週号においては『当面の目標値には達したため、ここからの安値を売ると顎を刺される危険はあるものの、戻りは売りだろう。買い相場も値頃感無用だっただけに、売り相場も値頃感は無用であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、NY原油は89.43ドル(3/4)まで下落するものの、その後は保合いで週末に掛けて反騰。週末3/8は、前日比0.39ドル高の91.95ドル(高値92.03ドル)での終了である。

98.24ドル(1/30)→89.33ドル(3/4)までの下げ幅は8.91ドルであったが、チャートの動き、特に相対力指数の推移を見れば、どうやら89.33ドルで底打ちした模様。

まだ完全に売りトレンドから脱却したわけではないが、もう少し確りした動きを続けるようであれば、徐々に買いトレンドへと変化するのではあるまいか？

また週末のロンドンブレントは110ドル台、ドバイ原油も106ドル台と下げ止まっている。なお週末のNY原油からの換算では、円安でもあるため750円高とそこそこの上昇である。

なお3/5現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

東京原油は、59,810円(3/4)まで下落の後、急反騰して62,000円台半ばまで回復。更に夜間取引では、63,170円の高値まで記録している。

66,460円(2/13)→59,810円(3/4)まで6,650円の下落の後、63,170円まで3,360円の戻りと、半値戻しを達成しているわけだ。

ここで戻り売りを浴びる可能性も皆無ではないが、NY原油は作為的かもしれないが、米経済の回復を裏付ける雇用統計を受けて上昇しているわけだし、東京はそれにプラスして円安という追い風がまた吹く情勢である。むしろ、59,810円で底打ちしたと考える方が、自然だろうと思うわけだ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年3月	¥52,040	10月1日	¥67,510	2月13日	¥50,610	11月12日	¥63,640
2013年4月	¥51,740	11月1日	¥67,320	2月13日	¥50,390	11月12日	¥63,770
2013年5月	¥54,860	12月3日	¥66,830	2月12日	¥52,370	12月11日	¥63,390
2013年6月	¥58,080	1月4日	¥66,690	2月13日	¥57,320	1月8日	¥63,060
2013年7月	¥62,910	2月1日	¥66,460	2月13日	¥60,070	3月4日	¥62,830
2013年8月	¥60,560	3月1日	¥62,600	3月8日	¥59,810	3月4日	¥62,590

結論として当方の相場観は、6万円割れで底打ちした可能性が高いだろう。それが正解ならば、今後は再び押し目買いへの転換であり、再度の66,000円台を目指す展開になると見る。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	4月限(当限)	前日比	9月限(先限)	前日比
3月4日	¥76,550	590	¥75,010	660
3月5日	¥76,480	-70	¥74,830	-180
3月6日	¥77,370	890	¥76,010	1180
3月7日	¥77,550	180	¥76,360	350
3月8日	¥79,090	1540	¥77,950	1590

続いてガソリンです…

先週号においては『天井からの暴落は、ひとまずの目標値に達した。しかし戻りはまた売られるだろう。来週は、逆張り乱高下に入るものと想定している』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けから反騰を始めた相場が、週末には78,000円に接近。その後の夜間取引では、79,040円の高値まで記録で、大きく値を戻す展開となっている。

82,250円(2/13)→73,260円(3/1)まで8,990円下げた相場は、すでに79,040円まで5,780円の戻り相場を演じている。

ざっくり9,000円下げ、6,000円戻しの、3分の2戻しである。もっともその前の上げは、18,000円ほどもあったわけで、ガソリンは一相場3,000円の幅が何発分動くかというサイクルのようだ。

先週号でも「天井からの暴落は、ひとまずの目標値に達した」とコメントしているわけで、この戻りにショックはない。しかし円安の進展により、「しかし戻りはまた売られるだろう」もう一つの予測は、ちょっと怪しくなったと考えざるを得ないか。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥63,400	9月26日	¥82,550	2月13日	¥62,560	11月6日	¥79,090
2013年5月	¥65,180	10月26日	¥82,380	2月13日	¥62,490	11月6日	¥79,100
2013年6月	¥67,980	11月26日	¥82,250	2月12日	¥66,480	12月10日	¥78,960
2013年7月	¥69,810	12月26日	¥82,280	2月13日	¥69,640	12月26日	¥78,790
2013年8月	¥76,550	1月28日	¥82,250	2月13日	¥73,720	3月1日	¥78,490
2013年9月	¥78,930	2月26日	¥79,120	2月26日	¥73,260	3月1日	¥77,950

先物の一代高値である79,120円はまだ突破していないが、これを超えるようなら、73,260円は底であったという事が、更に明確になるかもしれない。

3/8現在の業者間転売価格は、…中略…

3/2現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、結果的に73,000円台で底打ちした模様。需給面からの支援は無いものの、相場は再び押し目買いのトレンドに入ったものと思われる。

○東京灯油日足

…削除済み…

今週の灯油の値動き

	4月限(当限)	前日比	9月限(先限)	前日比
3月4日	¥73,410	690	¥73,210	1210
3月5日	¥72,780	-630	¥72,960	-250
3月6日	¥73,220	440	¥74,210	1250
3月7日	¥73,050	-170	¥74,520	310
3月8日	¥74,010	960	¥76,070	1550

最後に灯油です…

先週号においては『だいぶ目標値に近づいて来ているものの、明確な底打ち完了のサインは出ていない。それまでは、戻り売りを継続する相場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、戻りに入った相場が4日、6日と上昇した後、週末にも急騰して76,000円台を回復。その後の夜間取引では、**76,710円の高値まで記録**し、戻り高値を更新している。

82,030円(2/12)→71,500円(3/1)まで10,530円の大暴落を演じた相場は、夜間取引の高値76,710円まで5,210円の反騰中。半値戻しを演じている。

結果的にだが、**71,500円は底**であった模様。82,000円で天井、今度は71,000円で底だったのだから、戻り売り方針は撤退である。むしろ今度は、押し目買いへと転換だろう。

需給逼迫相場というのは過去のものだが、今後上がるのならば、大元の原油価格の上昇&一段の円安の進行となるのかもしれない。それが崩れた時には、また売り相場となるのだろうが。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥64,320	9月26日	¥81,700	2月12日	¥62,960	11月6日	¥74,010
2013年5月	¥64,410	10月26日	¥81,240	2月12日	¥62,530	11月6日	¥74,240
2013年6月	¥67,680	11月26日	¥81,460	2月12日	¥64,690	12月11日	¥74,560
2013年7月	¥68,440	12月26日	¥81,700	2月12日	¥68,040	12月26日	¥75,000
2013年8月	¥74,200	1月28日	¥82,030	2月12日	¥71,080	3月1日	¥75,490
2013年9月	¥76,550	2月26日	¥76,980	2月26日	¥71,500	3月1日	¥76,070

先物で78,000円と来れば、一段高に舞い上がるかもしれない。

3/8現在の業者間転売価格は、…中略…

3/2現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、結果的に71,500円で底打ちをした相場であろう。今後は戻り売り方針から、押し目買い方針へと180度の転換である。

[為替]

○ドル/円相場日足

…削除済み…

94.53 円 (2/25) を記録した後、91 円台まで円高調整が出てみ合いに入っていた相場だったが、7 日のドラギ ECB 総裁の発言から 95 円台への円安進行となり、**NY 市場ではすでに 96 円台半ばも記録**する事態となっている。

今朝の日経新聞での各アナリストのコメントでは、もう 100 円乗せが既定路線のように踊っていた。元々、円安論者だった当方には、何の異論も無いものの、あまりにも皆が言い出すとかえって不安だけである。

相場師というものは、元来がへそ曲がり、付和雷同が一番嫌いな事だから・・・(笑)

○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

127.69 円 (2/6) →118.70 円 (2/25) まで調整していた相場だが、7 日のドラギ発言で大きく円安に。

その後、週末の NY 市場では **125.93 円まで円安が進行**している。まだ 127 円の天井は抜けていないが、来週の動きには注目だ。

なお来週の主な予定は、

…中略…

○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

円安、円安と騒いでいるが、ではドル高なのかといえ、そんなに騒ぐほどではない気がするのだが、このドルの対ユーロでの動き=ユーロ/ドル相場のチャートを見ればわかる。

もっとも 2/1→3/6 までは確かにドル高であり、これが米国商品市場の下落を演出していたわけだろう。

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com